2023 年 4 月
立教大学図書館

図書館資料展示『竹取物語絵巻』(4 月～5 月)

「かぐや姫」でよく知られる竹取物語は、平安時代に成立した最古の物語とされ、多くの日本人に親しまれてきました。立教大学図書館では、古い竹取物語のコレクションを絵巻、屏風、絵入り写本等、多数所蔵しており、本学の特徴的かつ代表的な資料の一つとして、いずれも貴重書庫内に大切に保管されております。今回の展示では、本学名誉教授小嶋菜温子先生による『竹取物語絵巻』に関する解説文とともに、実際の絵巻をご紹介いたします。

近年、日本の優美な古典の世界を表している竹取物語は、国内のみならず海外からも高い人気があり、本学資料をもとに各国の言語（韓国語、デンマーク語、エストニア語）で翻訳された資料が発刊されております。『竹取物語絵巻』の実物とともに、各言語で翻訳された資料も併せて展示いたします。

また、2023 年 3 月の立教大学図書館ウェブサイトリニューアルを機に、立教大学図書館デジタルライブラリーの竹取物語絵巻（デジタル画像）の表示が精細になり、パソコンやスマートフォンでも流麗な文字と色彩豊かな図絵を鮮明に閲覧することができるようになりましたので、是非、実物と照らしてお楽しみください。

〈展示資料〉

1. 竹取物語絵巻　上巻・中巻・下巻
（配架場所：池袋図書館 貴重書庫 2 層、登録番号：52124379～52124381）
2. 다케토리 이야기
（韓国語翻訳: 이애숙翻訳、小嶋菜温子監修、고정환出版）
3. Taketori Monogatari：Bambusfælderens fortælling
（デンマーク語翻訳： Andreas Kronborg Danielsen 翻訳、SAXO PUBLISH 出版）
4. Vana bambuseraiduri lugu
（エストニア語翻訳： Alari Allik 翻訳、Loomingu Raamatukogu LXⅦ aastakäik 出版）

立教大学蔵「竹取物語絵巻」と「竹取物語 貼交(はりまぜ)屏風」について

立教大学名誉教授
小嶋菜温子

『竹取物語』は九世紀から十世紀にかけて成立した、日本の平安王朝物語では現存最古の作品です。かぐや姫が竹のなかから生まれ、月へと昇天していく――ロマンティックな筋書きを持つこのファンタジーは、後世の人々にも大いに好まれました。かぐや姫のイメージは『源氏物語』をはじめとする王朝物語に大きな影響を与えたばかりか、近代・現代小説の女性像にも反復されるとともに、今日では TV コマーシャルなどにもしばしば登場するといった具合です。

かぐや姫のイメージが拡大し膨張していくには、『竹取物語』の絵画化が少なからず関与したと見られます。『竹取物語』の絵について、早くは『源氏物語』のなかで言及されていました。物語を絵にして楽しむことは、平安時代の宮廷社会においてすでに行われていたわけです。ただ、『伊勢物語』や『源氏物語』の絵の現存数の多さに比べると、『竹取物語』の絵の現存数は思いのほか少ないと言えます。『伊勢物語』『源氏物語』の絵の古い作例は鎌倉・室町から見られるのに対して、『竹取物語』の絵で今日残っているのは江戸時代以降の絵が中心です。それは写本においても同様で、『竹取物語』の写本はほぼ江戸時代のものに限られています（本絵巻も物語本文を詞書として全文載せています)。かぐや姫のイメージの広がりとは裏腹に、『竹取物語』の現存する写本や絵画作例の時期が下ること、その数も限られていることは、古典享受史の一つの謎と言えましょう。立教大学蔵の「竹取物語絵巻」「竹取物語 貼交屏風」も江戸時代（中前）の作と見られます。いずれも貴重な価値を有するのは、現存する絵巻の数が 30 点足らずであることや、屏風の形での「竹取物語絵」が希少であることからも明らかです。

「竹取物語 貼交屏風」の絵は、絵入り写本の絵を貼り付けたと見られます。絵入り写本の『竹取物語』は、絵入り版本『竹取物語』の刊行と密接に関わるものと考えられます。いっぽう「竹取物語絵巻」もまた、絵入り写本や絵入り版本との相関を見る必要があります。絵入り写本・絵入り版本、そして絵巻といった形で、かぐや姫の美しくも哀しい物語のイメージは人々の心に浸透していったのでしょう。立教大学蔵の「竹取物語絵巻」「竹取物語 貼交屏風」はともに個性的な描写をも含みつつ、この美しいファンタジーの魅力をあますところなく伝えてやみません。